

## 第2回 貝塚市男女共同参画審議会 議事録

日時：令和4年11月24日（木）13：30～16：00

場所：本庁5階 大会議室B

### 1. 開 会

- ・事務局より開会挨拶
- ・会長より挨拶
- ・事務局より配布資料の確認、出席人数の報告

### 2. 議事

#### (1) 市民意識調査の結果報告について

- ・事務局より説明
- 会長 : 私がいただいた議事次第では、調査結果から始まることになってはいますが。
- 事務局 : 内容は調査結果報告なのですが、素案の中にアンケート調査結果を抜粋して入れておりますので、そちらをご覧ください説明をさせていただきます。
- 会長 : まとめるということですか。調査結果報告書自体は説明せず、コスモスプランの中に入っている調査結果で済ませるとのことですか、今から。
- 事務局 : 全ての問を説明できませんので、コスモスプランの素案の中に主要なアンケート結果を入れております。それを抜粋して、説明ではそういうことになります。
- 藤井委員 : アンケートの報告書を見てきたのですが、ここにアンケートが載っていないものとか統計の取り方が違うもの、色々あります。このアンケートの中では男女別で統計があるものとか色々あって、その中でどれを載せるのかまで僕たちはタッチしてはいけないということですか。このアンケートの中で、男女別とか年代別でものすごく顕著に表れている数字があります。それが報告書に網羅されていない可能性もありますよね。そのあたりの検討は、ここではなしということになるのですか。
- 事務局 : 藤井委員からご指摘がございましたが、素案として意識調査結果をまとめている冊子がございます。そこには、事務局で集計・分析した全ての結果を載せております。コスモスプラン第4期素案の中には、その中から抽出して主だったものを載せています。次期計画で核となるような部分を抜粋している段階です。まず、今日はその抜粋した内容の中でご説明したいと考えております。
- 藤井委員 : それをしようと思えば、報告書を読み込まないとこれを載せる・載せないと

いうことはできないのではないかと思います。だから、これはあくまでも事務局が良いと思って載せられている中身であって、このメンバーとしてはこれを載せようじゃないかという意見も入れたいと思います。だからそれは、この説明がなければ議論できない。

○事務局：藤井委員は、全てを説明せよということによろしいですか。

○藤井委員：時間が足りないので、そこも大きな問題ですが。多分この時間では到底無理だと思いますので。

○事務局：事前にその意味で配布をさせていただいておりました。

○藤井委員：まず、この報告書とプランのどれがどこに網羅しているか、それだけを読み込むのに丸一日かかりました。例えばこのアンケートのプランの中にどの報告書の何ページのどの分ですよとか、そういうことも書いておいてほしかったです。それすらないので、しんどかったです。このアンケート報告書を見たら、入れたいと思うことが載っていなかったです。これを説明されて「そうですか」と言ったら、この審議会の僕達の役割は何なのか、そこを今日は聞きたかったと思っています。

○事務局：第3期においても、同様の市民意識調査を実施させていただきました。そこと似通った形のものにつきましては、抜粋して載せています。委員からこの項目についても載せるべきではないか、そこについての議論も必要ではないか、とのご意見をいただきましたら、それは積極的に採用させていただければと思います。

○会長：時間がないことは、皆さんおわかりだとは思いますが。藤井委員からお話がありました。そうすると市民意識調査をかなり丁寧に読んでおいたことが私達の前提になっているということですが、通常だとかいつまんでも調査結果報告書はここが大事というところではご説明を受けると思います。皆さん、なくて大丈夫ですか。やっぱりやったほうが良いと思われる方が多ければ、事務局からザクっとでもお願いしたいと思いますが、大丈夫でしょうか。両方突き合わせて。

○藤原委員：今言われたみたいに年齢とか男女でわけていたのが、急に一度に男女という形で、見ていたものとイメージが変わる項目が何個かあって、そういう場面だけでも説明していただけたら。どうしてこれがこういうふうな考えで出されたのか聞きたいと思い、今回ここに来ているので。

○事務局：特に説明を要するような、藤井委員とか藤原委員から今ご意見をいただきましたが、特にこの項目について説明をしてほしいものがございましたら。

○藤井委員：探し出すのですか、これから。これからこれだと僕が探し出すのですか。

○事務局：とりあえず、大枠のところの説明させていただくというのはいかがでしょうか。

か。

○会長 : そうですね、多大なお金と時間と労力をかけて市民にご迷惑をかけながら調査をしたものがあると思うので、ざっくり注目ポイントを言っていた上で、どうですか。その準備はしていませんか。私の議事次第では、調査結果の報告書の説明が先あって、その後でコスモプランを二次進行することになっていて、通常の流れだと思っていたのですが、難しいですか。この大部の報告書は、調査に慣れている私とかのような人にはざっと読めるのですが、そうではない委員の方々には普通は難しい。ものすごい情報量があって面白い結果もたくさん出ていて、ここ注目だなというところもあるのですが、そういうのを掴んでいくことが難しい上に、さらに何をどうコスモプランに入れるかという繋がり判断がまた難しいので。

○事務局 : コスモプランの素案に概要として載せているものを、取り急ぎは説明させていただいてもよろしいでしょうか。こちらはやはり情報量が多くて時間も足りないかなと思いますので。

○会長 : ではまず、コスモプランの中で調査報告に関わっているところは説明できるということですね。

○事務局 : はい、今から。

○会長 : そこをとりあえずしてもらいましょうか。それ以外は色々後で審議したいと思います。

・事務局より説明

○会長 : それ以外に市民意識調査報告書の素案を読んでもらった委員の方々には色々お気づきの点や、これは興味深いのでどのようにプランに使えるか考えられた方もおられると思いますが、そのご意見をいただく前に、先に藤原委員から男女・年代別のクロス表が出ている項目と、こちらの計画プランでそれが出ている項目、何故違いがあるのかというご質問があったので。

○藤原委員 : すごく膨大な資料をまとめてもらっていて、素人が読んでもよくわかって興味深く読ませていただきました。下にポイントを付けて説明していただいているのがすごくわかりやすくて良かったのですが、もう一つ気になったのが、用語の認知度のところ。反対にその用語自体を知らなかったのも、あえて意味みたいなものを載せていないのかお聞きしたいです。

○事務局 : 用語解説につきましては、現在資料編が載っていないのですが、最後の資料編に載せさせていただきます。

○会長 : 多分その用語解説の説明があって、こちらの前のほうにその米印とか用語解説が載っていますというような印が付いていると、読んでいける。脚注にする手もありますが、あちこちに出てくるので。多分、まとめられますね。

- 事務局 : はい。
- 会長 : それでもう一つの質問ですが、どのような基準で載ったり載っていなかったりするのでしょうか。
- 事務局 : その点につきましては、例えば年代が上がるにつれて高齢の層で認知度が低くなる等、そういう結果が先ほども説明させていただいたとおり特徴的にみられている結果について、抜粋させていただいています。やはりそういう結果を載せることで、例えばこの年代で認知度が低いのであれば高齢の年代の方にフォーカスした啓発の内容や、伝わりやすい啓発の手法を考えていく必要があるという根拠にもなるかと思えます。そういった意味で載せております。載せていないものについては、現状でもアンケート集計結果が 11 ページから 30 ページまでと結構ボリュームがありますので、追加させていただいても良いのですが、あまりに素案の第 2 章の部分が長くなってしまっても。例えば計画書を手にした方が、第 2 章でボリュームの多さから読むことを諦めてしまった場合、計画の中身である第 4 章を本当は見たいのに、そうなるのはよろしくないということになりますので、抜粋という形にはなりますが、こちらで特徴的と思った結果について概要をまとめさせていただいています。
- 藤井委員 : トータルで載せているのですよね、男女別関係なく。アンケートでは、男女差がものすごく顕著に表れてくることが多々あります。男女合わせたのトータルではなく、女性でいくら、男性でいくらといった載せ方であれば、そんなにページ数も取らないですよ。それで、男性に比べて女性の場合はどうだとか、女性に比べて男性がこうだとか、意識がそこで出てくると思えます。トータルで男女合わせた数字なら、それは単に数字を合わせただけで男女まんべんなくこんな数字ですというだけの話で、顕著にならないと思えます。中身を精査して顕著に。ほとんどの項目で合計は要らない。男女を合わせた数字なんて、要らない。男女別の数字がほしい。
- それと統計の取り方ですが、単に年代別だけでなく、先ほどおっしゃっていた用語の解説等も、働いている・働いていないで大きく変わると思えます。今の 60 歳以上の女性で働いていない人は、圧倒的に多いですよ。それは何故かと言うと、職場にそういう知識が入ってくる・入ってこないというのがあると思えます。だから、就労形態等のクロスも必要だったのではないかと思います。そうしないと、単に年代で男と女で女の人に知らない人が多かったとか、そんな形だったら何にもならない。どこで知り得たかと言うと、やはり職場等が多いのではないかと思います。そのような統計の取り方を、もっとしてほしかったと思っています。

- 事務局 : ご意見ありがとうございます。就労形態のクロス集計ができそうな点に関しては、適宜追加させていただければと思いますが、間によってはクロス集計をした時に回答者数がかなり少なくなってしまうものがあり、それは統計的に誤差が。
- 藤井委員 : それを言うと、統計は 1,993 件返ってきたのですよね、到着数は 1,993 ではないのですか。
- 事務局 : こちらから発送して、7 件については到着していなかったのです。
- 藤井委員 : 向こうにいていないということですか。
- 事務局 : はい。
- 藤井委員 : ものすごく少ないですね。それは、届いているのに回答しなかったということですか。
- 事務局 : そうということです。
- 藤井委員 : 585 というのは、こちら側へ返ってきた中で何も書いていないからと思ったのですが、そうではなく 585 件しか返ってきていないのですか。
- 事務局 : そうということです。
- 藤井委員 : それで全体の意向が把握できるのですか。統計がどこまで深読みできるか、というところに関わってくるものですからね。
- 会長 : 重要な問題をいくつもお指摘いただいたので、最初の藤原委員の質問に関わるところでいくと、例えばコスモスプラン素案の 25 ページは、年代別はあるけど男女別がないわけですね。他では男女別掛ける年代別が出ているところがあり、例えばそういうところで何故デート DV・DV は全体の年代別しかないのかということと、男女別の差が出なかったからという解釈になるのですか。
- 事務局 : 男性・女性で分けた時の差より、年代別の傾向や差が特徴的にみられたということで、年代別だけ載せています。
- 会長 : そのようなことをどこかに書かないと、読んだ人は「何？」と思うので、本当はきちんと全部男女別とかを出して、上のコメントのところ「男女の性別に関わらず差が出ず、むしろ年代別の差のほうが大きかった、だから年代別に意識啓発を展開しないといけない」みたいな、そのようなものが親切だと思います。でないと「どうしてですか？」みたいなことが必ず出ると思います。
- 一つはそこで、もう一つは次に藤井委員が後でおっしゃっていた部分ですが、今回未婚女性が非常に多いとか、女性でも 60 歳代の人意外とパートタイマー等で働いていますが、男性に比べると勤務時間が少なかったり、だいたいワーク・ライフ・バランスになると男性が会社で教えられていることがこの頃進んでいます。そういうことが浸透していない層があるわけですね。

だから、そういうところへももう少しクロスをしてみて、何かターゲットになると言うか、こういう属性の人達には男女別で、プラス年代ではない別の要因でむしろ知ってもらうことが必要というようなことがあれば、本当はそれも載せるべきです。それで、政策に繋げる。意識啓発をしていく時にそれを活かすべきではないかと思ったりもするわけです。そのあたりのことですよ。他の要因がたくさんあるという。それを項目、項目で少し重要なところをクロスして確かめながら、政策に繋げるような。下はすごくよくまとまっていて、藤原委員がおっしゃっていましたがわかりやすく良いですが、そこを少し突っ込んでもらうというところですかね。

三つ目に、非常に回収数が少なかったというところですが、貝塚市の人口で回収数 585 自体は全体としてみると統計的には。

○事務局 : 統計的には、妥当な数字にはなります。

○会長 : ただ、もう少しクロスにして細かくしていくと、そこは信用できなくなるので。ブレが大きいと言うか。調査報告書には、結果に関しては少ないカテゴリーがあるので、解釈するのに気を付けないといけないと書いてあったと思いますが、こちらのプランのアンケート課題でも絶対どこかに最初に書いておかないといけないところです。皆見るとしたら、まずプランから見るわけですし。統計的には全体としては大丈夫だけど、今私達が本当はもっと知りたいクロスのところになると、ブレが大きいので気をつけてということを書いておいてから始まると、しっかりしますよね。

他にも色々ご質問とかご意見とかあると思いますが、どなたでもどうでしょうか。むしろ調査結果の報告書ではこれが面白かったけどとか、これが疑問だったけどとかいうことも含めてご意見いただいたら。

○藤井委員 : 例えばですが、13 ページの「しつけやあそびなど、日常生活での子育て」の項目がありますよね、この中で現実女性の 40.7%が「あてはまらない」これが一番多いです。その「あてはまらない」数字を飛ばして無視して結論を出せるのですか、ということです。「あてはまらない」ということは、他に何か要因があるのではないか。

○事務局 : 「あてはまらない」と回答されている方は、子育てについての項目ですので、子どもがいらっしやらない方が多いかと思っております。

○藤井委員 : そうかもわからないですし、子育てを卒業された方かもわからないし、例えば働いている人でもおじいちゃんおばあちゃんに預けている場合があるかもわからないし、そのあたりがわからない。ここの一番多い「あてはまらない」を除いて結論は出せないのではないかと思います。先ほどから言っている中身で、年代別・年齢別でクロス集計、それから就労・就労していないで

クロス集計を是非というのは、歳いった人の意識、女性でも男性でも歳いった人、働いている人・働いていない人、それから家族構成によって、ものすごく数字が変わってくる。それを単に男性・女性、年代でして、わからない、これは想像できないからカットとすると、このような調査の意味がだんだん薄れてくる。単に作ったから終わりとなると思います。そこを問いたいのです。そこを統計で調査が取れなければ、色々な要件が考えられるというところまで突っ込めると思います、文言の中で。

○会長 : 今の例えば 13 ページからのところですが、女性で現実を回答した方が 27 人しかいなかったのですよね。何かその低さが不思議で。

○事務局 : 未婚や死別の方が女性の回答者の属性としてはかなり高くなっておりまして、結婚している、もしくは現在結婚はしてないけれどもパートナーと暮らしていると回答された方が、この現実の間に対してお答えいただくという間の構成にはなっていたのですが。未婚の方、もしくは死別の回答が今回多くなっておりまして、27 名の回答しかこのグラフには反映ができなかったということになります。

○会長 : 高齢者とかがいない人、子どものいない人が全部回答しなかったら、27 人しか残らなかったということですか。じゃない、27 人の半分？

○事務局 : 27 人のうち 40.7%の方が「その他・あてはまらない」を回答されているという結果が出ております。

○会長 : 調査票のデザインが悪かったのかしら。普通こういう人だけが、該当者だけが答えていくので。

○事務局 : そうですね、ただ男性に関しては結婚している方とかパートナーと暮らしていると答えた方が 203 名いらして、男性に関しては「その他・あてはまらない」がわりと少なかったのも、たまたまと言うか、女性で家事とか育児とかで恐らくですがお忙しい方は、あまりこの調査に回答をいただけなかったのではないかという、あくまで推測にはなりますが。

○藤井委員 : 報告書にも年代別が入っていないですね。そのように言っているけど、確認できない。そこに年代別も入れてもらえると、今の議論ももう少し整理できたはずですね。

○会長 : 少なくとも、とにかく 27 人しか回答がなくて、そのうちの半分が「あてはまらない」に入ってしまったというようなことがある項目は、子育て関係の回答だけど、解釈していく時に全部まとめて現実と希望がずれている、だから、というわけではなくて、そこに一定留保を入れながら、でもこれだけは言えますみたいなことにしておかないと、このまま使うと信頼がなくなってしまうと思います。

他にいかがですか。

○阪口委員：調査報告書の8ページ問6で「結婚されていますか」という問があり、そこで今のお話と関係して男性は68.6%が結婚されていて、女性は5.2%しか結婚されていない。そこでものすごく差があって、さっきも27人ということになっていたと思いますが、まずこれが理解できなくて。同居家族であれば男性が結婚していたら女性も結婚しているはずなので、普通にまんべんなくあたれば同じ率ぐらいになるのではないかと思います。極端に違うのは別居していて奥さんだけいないのかとか色々考えてしまって、この解釈が難しい。たまたま取ったサンプル500何十人返ってきた中のバラつきが偏ってしまったということですか。そうすると、女性は27人しか結婚されていないので、この後ずっとさっきのアンケートで希望と現実の現実が27人しか答えていないことになる。このあたりが、サンプル数としてやや不安かなと感じました。

○会長：施策にストレートに繋げるのは、ちょっと無理がありますよね。もう少し後ろのほうでどういう政策を貝塚市に期待しますかというところでは、上のほうに子育てと介護がもっと大きな数字で出てくるので、そういうのは施策に繋がれると思うのですが、ここからはちょっと。事前の質問もいただいていましたが、どうしてこれほど。それで言うと、先ほどのアンケート結果報告の解釈は一定の留保が必要だということに関わるのですが、国勢調査で例えば貝塚市の既婚女性は年代別でどれぐらいいるかとか、一人世帯はどれぐらいいるかとか、そういうことを押さえておいて、これだけしか聞けていませんという位置づけをしておかないと、全体がみえない。それと、これをどれだけ信用していいかどうか、解釈していいか、あるいは施策に繋げる提言をしていいのかがわからなくなってきました。そのあたりの繋がりをきちんとしておいてほしいです。世帯のザクっとしたところは、貝塚市の説明でプランでは国勢調査がありましたが、アンケートに特に関わってくるのは必要だと思います。5%しか貝塚市にいないわけではないと思うので。この低さは、少し驚きました。こういう結果は初めてで。

○藤井委員：抽出の仕方にあるのですか。

○事務局：抽出については、市で行っているのですが。

○事務局：抽出に関しましては、市の情報統計課に依頼しまして、男女別・年齢別・校区别、前回の審議会でもご審議いただきましたが、これでランダムに無作為抽出して男女1,000人ずつに送付しています。ですので、これは主婦の方に送るとかそういうものではなく、男女・校区别・年齢別で送っていますので、たまたま既婚女性の中でアンケートに答えてくれる人が少なかったという

ところまでしか、こちらでは言えないところです。

○会長 : 事前に「補足調査をする予定はあるのでしょうか」というご質問を委員からいただいていたのですが、それに関しては後の事務局からの回答になっていくと思うのですが。

○事務局 : 今、会長ご指摘の追加調査、これも事前に質問をいただいておりますが、事務局から言いますと、既婚女性で回答した人が少ないことも含めての調査結果と考えております。ですので、既婚女性のみサンプルを追加抽出しての補足調査は考えがございません。ただ、既婚女性が回答していただける調査方法を含めて、それも課題と考えております。

○会長 : 阪口委員からそのあたりのご意見をいただいていたのですが。だからそういう課題は、どこか一言書いておいたほうが良いとは思いますが。正直に。他にいかがですか。

○河野委員 : 関連のところになるのですが、先ほどの回答のバラつきの元々にあるのも、調査報告書の2ページの間にある年齢で30代までの回答の割合がかなり少ないです。なので、男女比もそうですが、ここの年齢の回収率の影響もかなり出てくると思います。本編の計画素案には調査をしたベースになる情報が全くないので、このあたりの回答に偏りがあります。年齢もそうだし、男女別、既婚のところとか傾向を書いていただく中で、そのままの数字で見られるところと、そうでないところの注釈等をいただくと有難いと感じました。あと、回答率の低さはかなり厳しいですが、ただ、全国的に30~33%ぐらいで一応調査のところは取っていけるのかなというところがあるので、低いなりに分析ができるところと、回答率が少ないことについては、実際の意識の低さとまでは言わないけれど、そういったところにも影響していると思うので、真摯に受け止めないといけないところは書いてもらっても良いのかなと感じました。

○会長 : 調査結果報告書は今ご説明いただいてないわけですが、本当はどれだけのサンプルしかないのか統計的な誤差が、例えば10%と書いてある時にそれにどれだけブレがあり得るかという幅の誤差表を、調査報告書には入れておいてもらおうと思います。それを見ると、例えば10%と書いてあるけど実際には15~25の間かもしれないみたいな、何かそういうことをやっていくので。それが年齢別・性別でどこかに入っていると、もう少しきちんと読めるとは思います。プランにそこまで要るかどうかと言うと要らないですが、結果報告書には必要です。

○事務局 : わかりました。

○会長 : アンケート数の少なさも、郵送だけでこれから良いかどうかとか色々ですね。

他の自治体でも、やはり 10 代からは 20 人しか回答がないことも結構ありますが、貝塚市は全部少ないから逆に 10 代 20 代が結構パーセントを占めることができるような少し悲しい状態になっています。男女共同参画の政策自体の大きな課題の一つですよね。

- 甘佐委員：今の河野委員のご意見とも関連しますが、私も問 2 の年齢別のこれが気になります。3 分の 1 程度の有効回答率とのことで、高齢者 60 代以上が 55%、男女・年齢もまんべんなくアンケートは送付していただいたと聞いていますが、それにしても 50 代も入れると 70 何%がその年代の方の回答になっています。反対に言うと、50 代以下の年代の人達は男女共同参画計画に関心がないのかと。50 以上の方はそれだけの関心があるから回答してくれているが、回答しないということは若い人達は関心がないのか、非常に気になります。
- 会長：各課題の意識啓発だけでなく、全体的な貝塚市の大きな課題がここに表れているという形で、この結果を大事に使いましようと思位置づけたいと思います。せっかく税金を使ってしたので。大きな課題が明らかになったという感じですね。
- 他にご意見いかがでしょうか。
- 藤井委員：統計資料 12 ページの仕事を優先するとか家事を優先するとか統計を取っていますが、それはプランに一切入っていないです。除いた理由は。
- 事務局：除いた理由と言うより、コスモスプランの 13～15 ページの「家庭や地域での役割分担について」の結果で、特に希望では夫婦同じくらいと思っている方がすごく多い一方で、特に家事に関しては主として妻と考えている方が多く、そのような点で希望と現実の乖離がこちらのほうが見やすく大きく出ていると思いました。除いたと言うより、限られたページ数の中でこちらのほうがわかりやすいと思い優先して掲載しています。
- 藤井委員：ページ数は何ページが上限なのですか。
- 事務局：上限はないのですが、現状でも 20 ページくらい占めていますので記載を除いたのですが、もしこれも記述してほしいとのことであれば掲載させていただきます。
- 会長：プランには使われていない調査項目がたくさんありますよね。ここで希望を言えば載っていくのでしょうか。予算等にも関わってくるとは思いますが。
- 事務局：ご意見を頂ければ検討します。
- 会長：ご検討いただくということで、審議会でも他にこれはむしろ重要なので載せておいたほうが良いのではないかという項目、お気づきの点があれば今ご意見をいただいております、事務局でご検討願うとしたいのですが、いかがでしょうか。

○藤井委員：今のどれを優先するかですが、報告書 13 ページに年代別・男女別を載せていただいています。その中に男性の「個人生活を優先する」は、70代・80代が多いのは当たり前の話です。そのあたりをトータルで出してしまうと、全ての男性がこうだ、全ての女性がこうだとなってしまうので、そこはきちんと年代別に出して、具体的に特徴を書いてもらわないと全体像が見えてこないと思います。

○会長：今の点も是非お考えいただいて、皆さんのご意見も考えていただく間に繋ぎで言うと、価値観のところ「結婚するのは自由だ」とか「しても子どもを持たなくてもいい」とか「離婚してもいい」とか、そのあたりの意識が特に女性の若い世代で大きく変化してきています。男女共同参画基本計画という施策のレベルで考えると、そのような価値観を持った人達も男女共同参画に関わっているわけだから、そのあたりが繋がるような政策を考えていかないといけないと思います。先ほどのどういうのが必要ですかというところでは、子育てと介護とかが出てきたのでわかりやすかったです。とにかくあらゆることにジェンダーの視点がきちんと入っている、実はこの問題もきてみたら関係があったというような、そのような形の施策を展開することが必要です。子育ての予定もない方、離婚するかもしれない、しても良いと思っている方、そのような家族・世帯のイメージでやっていけないような時代がきつつあります。それが今回サンプリングの問題はありますが、少なくとも調査結果には出ているので、それを踏まえての施策も今後 10 年間立てようと思えば、もっと変わっていくと思います。そういう人達が貝塚市で中心になっていきます。そういう人達も住みやすいような男女共同参画というふうに、課題としては調査結果を使ってほしいと思いました。

他にいかがでしょうか。

○国安委員：先ほど藤井委員が、報告書の 13 ページのクロス表で 70代・80代の男性で「個人の生活を優先する」が多いのは当然だとおっしゃったのですが、同じく女性も 70代・80代は「個人の生活を優先する」が多いので、そういう意味では男性だけ出すのではなく、女性も多いとしていただくと偏りが無いと言うか、男ばかりみたいには思われたいです。会長がおっしゃったように、どの結果でも 10代・20代のジェンダー等を知っている数字も全体からすると 20%程度かもしれませんが、他の年代よりは多いということを伝えていただけたらと思います。

それと、報告書の 61～63 ページのデート DV ですが、ここで男女の意識の違いを出していただけたらと思います。数字だけあげるより、暴力は 1 回でもあってはいけないことを伝えたいと思いました。例えば問 26 の「生命の危険

を感じるほどの暴力をふるう」は「したことがある」0.3%、「されたことがある」も男性1.4、女性9.0%、数字的にはどうかということはあるかもしれませんが、一人でもあってはいけないことなので、そこをさらっと流すよりも、被害を受けたことがある人がいると出していただくほうが。ただ読んでいくと「あるんだ」で終わってしまって、普通の事件にならないような感覚になってしまいますが、一回でもダメなものはダメなので。そのあたりをDVに関しては強調と言うか、拾っていただきたいと思います。

あと誤字ですが、同じく報告書の73ページ問31の「加害者が自立して生活できるように」は、「被害者が」の間違いではないですか。

それと、コスモスプランの12ページの家事の時間が4時間未満から始まっているのが、残念に思いました。同じフルタイムで働いている男女と比べても、家事を4時間未満で一括りは厳しいと思います。専業主婦でも長い時間あるけど、就労している女性であればなおさら細かい時間でしている人もいますので、4時間未満だから少ないと思われたくもないし、そういう意味ではこのあたりはどんなふうに。男女差を出すのであれば、別に1～2時間未満からでも良かったのではないかと思います。30分でも4時間未満だし、1時間でも4時間未満になってしまうと、すごく残念だと思いました。もう少し細かい区切りがあったほうが良かったと思いました。

○会長 : これは、質問自体が4時間未満にしてしまっていたのですか。

○事務局 : 質問自体が4時間未満でした。

○藤井委員 : 今の件で思っていたのが、「パートナーが」と「自分が」というのがあれば、パートナーに対して自分は一生懸命やっているのに全然してくれないと思っていると、そういうことも出てくると思います。報告書の10ページでは4時間未満の女性は71%、夫は全然していないと女性は思っています。男女の差は絶対あると思います。そのあたりがもう少しあれば良かったと思います。確かに時間は30分でも4時間未満というのは。

○国安委員 : それと例えば、コスモスプランの28ページ下の四角の枠内の2行目「相談しなかった理由から被害認識の薄さや、被害者が自分を責める傾向等が見受けられます」は、取り方によっては被害者個人の問題になる気がします。例えば「責めてしまう」という書き方にさせていただくとか。全体で思いましたが、「男性では8割を超えています」の中に、例えば「男性は相談するのが恥だと思っている方が多い」とか、「そういうこともジェンダーバイアスが入っているのではないか」といったことも書いていただくと、わかりやすいのではないかと思います。

それと、先ほど山本さんが「相談先についての周知を図るとともに」の前の

段階で、「あらゆる人権啓発の」とお話して下さったのがここに書かれていません。相談しなかった理由の中で人権啓発は大切だと思いますので、それも是非入れていただきたいと思いました。

それと、デートDV等の文言を知っている世代がいること、「知りません」という否定から入るのではなく、知っている年代10代・20代・30代・40代は多く90%以上ということを書いていただくと、先ほど会長が言ったようにこれからの世代に繋がるのではないかと思います。

同じくコスモスプランの22ページの「女性視点での防災について」の下「防災・減災を推進していくため、備蓄品をはじめとした～女性の視点を入れる取り組み」とか「～マニュアルの作成等に努めていく必要があります」の中に、できれば防災会議のメンバーの男女比を半々にするとか、女性視点を取り入れる会議そのものに女性を入れることを入れて、女性が自らの声で発言できる場を設けていただきたいと思いました。

○会長 : あと、調査報告書に入っていたけどプランに入っていないものに、コスモスプランをほとんど皆知らないとか、男女共同参画社会基本法も知らないとか、色々知らない結果がいっぱいありました。ところが、プランではアンケート結果としては使われていないと思います。コスモスプランで動いている私達の審議会が、コスモスプランがこれだけ知られていないことは、やはりまずかろうと思います。法律はもちろん知っていないといけないのは当たり前ですが、そういうことも意識啓発の中核にあるものだと思うので、調査結果をきちんと使って施策を提案してほしいです。若い人はコスモスプランをほとんど知らなくて、年寄りが知っていて、でも法律は若い人のほうが知っている、みたいな色々振れ状態もあり、政策としてやっていく時の課題がここに出ていると思います。

他にいかがですか。

○藤井委員 : プランの29ページ「男女共同参画に関するこれまでの取組について」、報告書では84～110ページです。例えば「男女共同参画に対する理解」についてプランでは何も取り上げるところがないような形になっていますが、報告書では女性のほとんどが「わからない」になっています。何故か、そこも突っ込んでほしいです。プランでは「わからない」は34%ですが、男女別の女性を見るとほとんどが40%以上もあります。女性が本当は知っておかないといけないのに、浸透していない。男性がほとんど知っているのは、現状から言うと就労に関係しているとも思います。そのあたりも男女別にきちんと押さえてほしいと思います。トータルでやってしまうと、焦点がぼけてしまうような気がします。

○会長 : 西浦委員は何かいかがですか。

○西浦委員 : 具体的なプランのほうで。

○会長 : 後でまたご発言いただきます。

他に調査結果に特に関わるところでお気づきの点があれば、後ほど事務局へ個別にメールをいただいてもよろしいですか。

それでは、次に進めます。

## (2) 貝塚市男女共同参画計画(第4期)コスモスプラン素案について

### ・事務局より説明

○会長 : ありがとうございます。それでは、委員の皆様からご質問ご意見をいただいております。

○事務局 : 事前に委員の皆様からご意見をいくつかいただいておりますので、事務局からの回答と併せてご紹介いたします。

### ・事務局より説明

○会長 : ありがとうございます。M字カーブの説明について、「主に」は要らないのではないですか。

皆さんお手元に資料があるほうが確認しやすいとは思いますが、現時点で何かご意見はありますか。事前にいただいた部分だけではなく、今説明していただいたプランのほうでご意見、ご質問があればいただいで進めていきたいと思ひます。

○藤井委員 : 4ページの棒グラフの年度が平成29年からになっていますが、前回のものは5年おきにやっています。5年おきにしたいほうが、人口推移が顕著になると思ひます。

○会長 : それでももう少し遡るといふことですね。もう少し長期にわたって5年ずつのものを出すといふことですね。

○藤井委員 : そうです。前回の報告書もそうなので、他の表もだいたい5年おきと毎年と色々ごちゃごちゃになっているところがあるので、5年おきなら5年おきでやっていたらと思ひます。

○会長 : ありがとうございます。できるだけ5年おきでお願いします。

すみません、時間がギリギリになってしまつて。他の方、もう少し大丈夫でしょうか。お仕事とかあると思ひますが、申し訳ございません。

それでは、他にご意見いかがですか。

素朴な質問ですが、重点項目を定めると事務局がおっしゃっていましたが、それについてはまた案をいただいで、この審議会でも議論して承認していく手順になるのでしょうか。

- 事務局 : 重点項目につきましては、役所庁内で男女共同参画推進委員を決めて、前回から数字が下がってきているようなものについては重点的に取り組むということで、庁内で重点項目を定めてまいりたいと思います。
- 会長 : わかりました。ありがとうございます。  
その他にいかがですか。
- 国安委員 : 33 ページの「学校等における男女共同参画の推進」の具体的施策に「男女平等教育」と書いてありますが、これは「ジェンダー教育」としてはどうでしょうか。  
それと、34 ページの「健康で安心して暮らせるための環境の整備」の2 番目「生涯にわたる心とからだの健康保持」で「性に関する情報の提供」とか「妊娠・出産等にかかわる支援の充実」は、リプロダクティブライツになると思いましたが、いかがでしょうか。
- 会長 : それは言葉として入れ込んでいくということですよ、ここに。Sexual and Reproductive Health and Rights というやつですよ。その言葉をここにに入れておけたら良い、というご意見ですね。
- 国安委員 : はい。国の第5 次にも出ていますので。
- 会長 : 入っていますね。  
他にいかがでしょうか。  
第3 期プランの評価のところで、評価が未達成となっていて次のプランでどういう施策をするというところがあります。アンケート調査の結果を次期プランに活用することが柱の一つですが、もう一つは未達成の原因分析は。評価に未達成と書いてあるだけで、いきなり次にプランにいつてしまうのですが、プランの案を作成した時に原因分析は当然されているということですよ。
- 小西委員 : 達成していないところは同じ目標値をそのままスライドしているのはわかるのですが、アンケート調査の項目に「わからない」を追加したりしているので、そのままスライドが良いのかどうか。数値が高すぎることはないのかどうか。常に未達成の状態が続くのであれば、そのあたりはどうお考えでしょうか。数字を変えろという意味ではないです。今さら変えるのはかなり難しいと思うので、そのあたりを一定考えていただいて次の10 年で高すぎない設定のほうが良いのではないかと。あまりにも高すぎて目標が達成できなければ、本当に妥当な数字なのかどうか議論が最終的にあがってくる場合もあるのではないかと。そこは考えていただいたほうが良いと思います。
- 会長 : ありがとうございます。何か事務局からありますか。
- 事務局 : 進捗状況のチェック方法については、皆様に配布している資料のとおりにな

ります。今後につきましては、先ほど申し上げました庁内で推進委員を設け、さらなる目標達成に向けた取り組みをしていきたいと思っています。社会全体が男女共同参画に向けた熟成した社会になっていくように、引き続き頑張っていきたいと思っています。目標が高いのではないかとのことですが、とりあえず継続していきたいと思っています。

- 藤井委員：男女共同参画推進本部は平成3年から設置されていますよね。そういうところでずっと検討されているのですか。プランに対する実績の確認等もこの推進本部でされているのですか。機能していなかったのですか。
- 事務局：そういうことでございます。
- 藤井委員：これから機能させていくということですか。
- 事務局：そうですね。今回達成していなかったことが明らかになっていますので、引き続き今後は。
- 藤井委員：今年はどうだったのですか。
- 事務局：今年進捗の確認をさせていただいたことが活動です。
- 藤井委員：前回もこの推進本部の名前がよく出てきていたので、さぞ貝塚市としてやっておられるのだろうと期待していたのですが。23年度からはこれを中心に色々な推進状況を確認していくと。
- 事務局：10年のプランができるので、そこについて取り組んでまいりたいと思います。
- 藤井委員：単にできた、できてないだけで、ほとんど達成できていないですよ。何を以てできたと言うのか。単に取り組めたと言えるのかどうかということが、これを読んだ感想です。
- 事務局：各課にヒアリングしておりますので、数値を書いて報告していただいているところもあれば、そうじゃないところもあります。今回については未達成であることを改めて庁内で確認させていただきながら、達成に向けて取り組んでいきたいと思っています。
- 会長：原因の分析をされたのかというところは、結局よくわからない感じですが。とにかく庁内全体ヒアリングをしていただくのは、限られたスタッフで大変な作業だとは思いますが、それをしないとこれは進まない施策なので。原因の分析も各課からヒアリングされて、本部があればそれでして、進捗管理とも関わってきますが、やはり1年に1回きちんとヒアリングして見直して改善策はどうすれば良いのかという案も各部から出していただき、それを検討するというようなことをきちんと書き込んで。PDCAのこの図は、悲しすぎるじゃないですか。スカスカですから。もう少しきちんとアピールができるようなものにしていただけたら良いのではないかとということが一点です。あと、小西委員からありましたが、「わからない」は私が今回ゴネて入れた選

択肢ですが、私が思っていたのは「わからない」という回答自体が問題と言うか、「わからない」が多いとそれ自体を市民が知らないということだと思えます。だから「わからない」が減ることも、一つアンケート結果から導き出される課題だし、それから「浸透していない」とはっきり書いて、それも減らしていくことも課題だし、という二段構え的な効果を狙いました。そのあたりも留意しながらプランを考えていただけたらと思います。

他にご意見いかがでしょうか。

○鈴木委員：一つ考えていただきたいのが、小学校教職員における女性管理職の割合が30%とあります。これは、あくまでも目標として流していましたが、達成することは恐らく今後無理だと思っています。任命権者は、あくまでも府教委です。ですから、これをここに目標としてあげることの是非は。できるだけ多く女性管理職を登用していきたいですが、それをここへあげることが相応しいのか、疑問に思っているところです。でも、増やしたいという思いは市教委の中にはあるので、できるだけそのような方向でとは思いますが。30%、3校に1人は恐らくならないだろうという思いはあります。

○事務局：確かに教育長がおっしゃるように、市は任命権者ですので女性の管理職については採用当時から意識することはできるでしょうけど、府が採用する分はできないという思いはありますが、府の教育委員会も似たような目標を掲げていると思います。あえて府に合わせて入れていくのが良いのか、例えば市職員の管理職を入れているのでそれで補っていくか、というようなところになると思います。

○鈴木委員：自分自身、この数字はできるのかなという思いが実際あります。校長職に女性も増えて行ってほしい思いはありますが。僕も校長をしましたが、後ろがスケスケです。誰も後ろにいない、一人で全てを背負わないといけないという凄まじい仕事であって、それを「あなたやりなさい」とは言えないし、府の試験を受けて合格した人が校長・教頭になっていかれるので、その目標を決めることはどうなのか。

○藤原委員：ずっと気になっていて聞こうと思っていたのですが、コスモプラン 22 ページの「女性視点での防災について」の「市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」と、「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」は、女性のパーセンテージが低いです。アンケートの人数の結果かとも思いましたが、意識のここがどうしてかすごく気になりました。女性自身もそういう場に立っていくという意識改革が必要ではないかと思うところがありました。

○会長：先ほどの達成目標のところからいくと、鈴木委員としては残しておいても良

いのですか。

○鈴木委員：残しておいていただいて、できるだけ頑張っておける人を増やすことはすれば良いけど、個人の意思の問題もあるので恐らくできないだろうという思いはある、ということだけお伝えしておきます。

○会長：ありがとうございます。この目標値のところ、項目自体について他に何かご意見はありますか。今思いつくことがあれば言うておいていただいて、またご自宅で再度見直してから一週間以内くらいにでも構わないとは思いますが。よろしいですか。では、ここは宿題にさせていただきます。

藤原委員のご意見は 22 ページです。下のほうの項目にいくと、男性のほうは「はい」と言っているのに女性のほうが引き気味な回答が並んでいるということですよ。

○藤原委員：鈴木委員のお話と共通しているのかなと。

○会長：女性自身に積極的に関わるところが引き気味な状態がある項目が、同じように並んでいるのではないかとということですよ。

○藤原委員：意識的にそういうものが貝塚市の中にあるのかなと。

○会長：家事育児の負担があるからこのような出張のところはしんどくて、両立困難と職場に関してはよく言われていますが、防災の場でもどうかと言うと、女性自身に防災はまだ男性のものという意識もないことはないかもしれません。そのあたりは、「女性視点での防災」というプランの施策を展開する時に少しプッシュしていくことも必要かもしれません。

○藤原委員：やはり、女性の気持ちの啓発的なことも必要ではないかと思いました。

○会長：そうですね、ありがとうございます。  
他にいかがでしょうか。

○和田委員：地域の自主防災会の運営の中で、男ばかりよりも女性に入っていただくと、男では気がつかない部分のご意見をいただけるので、そういう面では有難いと思っていましたが、22 ページの防災の部分で言うと女性からの賛同がなかなか得られません。いざとなれば力仕事よりも逃げたほうが良いのですが、力仕事ということがものすごく前に出てしまいます。力仕事が必要という観念があるので、なかなかご協力を得られないことがあります。皆で楽しく防災について考えてやろうというところにもっていくと、結構女性もご賛同くださると思っています。大変な部分だけを考えると協力は難しいと思います。もう一つ、市長は貝塚での女性の割合を 40%にしたいとおっしゃいました。教育長は 30%のところの話をされました。それに向かって皆で切磋琢磨してがんばろうというのが目標だと思いますが、達成することは難しいけども皆で力を合わせてとか色々なことを言いながら、また次の次元でそれをク

リアしていくということがあるかもしれません。

○会長 : ありがとうございます。

他にまだご発言いただいていない方、いかがでしょうか。

○鈴木委員 : もう一点だけ良いですか。AV 出演強要問題は学校教育課が啓発するという事になってはいますが、これはターゲットを中学生として学校教育課になっているのですか。高校生になるとまた担当が違いますので、そのあたりがわからなくて。

○会長 : これは実際の担当課がどのように考えておられるのですか。

○事務局 : これはそれぞれの課に投げかけて、学校教育課から回答がきたものです。

○会長 : 学校教育課は中学校を想定しているのか、高校を想定してこれが返ってきているのかではなく、事務局でこれを作られたということですか。

○鈴木委員 : ターゲットを中学生と事務局はみているということで良いのですか。AV 出演強要問題、JK ビジネス問題は危険だという、極端に言うところいう事業ですよ。学習指導要領にこんなものは載っていませんから、中学校の学習指導要領を飛び越えたようなことを貝塚市ではしなさいと捉えて良いのですか。

○事務局 : 事務局から投げかけて返ってきているので、やっていただけるのかな、くらいの感じで。

○鈴木委員 : こんな事業を中学校でするのは、逆に危険だなと。

○事務局 : 逆に高校で対応ということ。

○鈴木委員 : 高校生に啓発するなら青少年課で啓発対応するとか、それはありかなと思いますが、中学生でここまでの子は滅多にいないのにするのか疑問でした。

○会長 : 学校教育課が OK 出されたということですよ。

○事務局 : OK と言うか、そこまで担当するべきだということの確認は取れています。

○鈴木委員 : 調整させてもらって良いですか。

○事務局 : はい。

○会長 : ありがとうございます。

時間が押しています。一旦切って、例えば何日までに追加のご意見があれば事務局にご連絡いただくという形で閉じさせていただいて良いでしょうか。まだ進捗状況の説明もしていただいておりますが、プランを一旦ここで終わらせたいと思います。

事務局としては、調査結果報告書やコスモスプランの素案に対するご意見は、だいたいいつ頃までに私達から追加の意見を言えば良いですか。

○事務局 : できれば次はパブコメの段階にいきたいと思いますので、申し訳ないのですが今月中くらいでご意見をいただけたらと思います。

○会長 : わかりました。ありがとうございます。

- 藤井委員：それは、文章についてもですか。少しおかしいと思う文章について、100%書く能力はないので、この文章おかしいですよと言ってよろしいのですね、ということですか。
- 事務局：ニュアンス等も入れておいてもらえれば有難いですが、どのような意図でそこがおかしいか、代替案もあれば事務局としては助かります。
- 会長：できる限りということで。代替案があると、有難いですが。今月いっぱいとのことで、ご多忙なところ申し訳ございませんがよろしくお願いたします。そのご意見をいただいた後で、細々としたパブコメに向けての最終案的なものは、会長に委任していただくということで。
- 藤井委員：パブコメやるのですか。
- 会長：パブコメやります。その前の案を固めるのですが。
- 藤井委員：その報告も、またこの会であるのですか。
- 会長：はい。そのパブコメに出す前の、これの次の修正案を皆様からご意見をいただいたもので、二人と事務局、サーベイリサーチセンターと最終調整をさせていただきたいと思います。審議会は開けないと思いますので、ご一任いただいて良いでしょうか。
- 一同：異議なし。
- 会長：ありがとうございます。  
それでは、修正がなされましたら事務局から皆様に案を送っていただいてよろしいでしょうか。
- 事務局：パブコメ前の状態で送らせていただいてよろしいですか。パブコメで市民から色々なご意見があると思います。そこについてはまた事務局で修正案を考えていきますが、パブコメ前の状態のものを送付してもよろしいでしょうか。
- 会長：良いのではないのでしょうか。
- 事務局：了解いたしました。
- 藤井委員：それと、アンケート調査をした元のアンケートをください。どのような質問があったのかわからないです。最終案はもらっていません。
- 事務局：失礼いたしました。
- 会長：と言いますか、普通はこの報告書の最後にアンケート票を付けておくと思うのですが。
- 事務局：確定版は送っていなかったですか。
- 藤井委員：もらっていないです。
- 事務局：再度改めて送付いたします。
- 会長：報告書の後ろにも付けてください。
- 事務局：はい。

- 会長 : 事務局、進捗状況はどうかございますか。
- 事務局 : 前回審議会で、目標値を定めているけど具体的にどのようなことを実施したのかというご意見をいただきましたので、それをまとめたものが先ほどご紹介した横長の冊子になります。そこに各課が実施した内容を記載しておりますので、報告は省略させていただきます。
- 会長 : ありがとうございます。先ほどご意見もいただいていたのですが、取り組めたというだけでは何かよくわからない。このような進捗状況を第4期のプランの時にどのような形で把握していくか、審議会に見せて市民にも公開していくかも重要な課題になると思います。そういう意味でまた見ておいてください。これは実際に計画が走り出す頃に進捗状況の管理を考えていけば良いと思いますが、ご意見があれば急ぎませんのでよろしく願いいたします。それでは、他にご意見ご質問はございませんか。
- 長時間にわたりご意見をたくさんいただいたので、より良いものになると思います。ありがとうございます。

### (3) その他

- ・事務局より今後のスケジュールについて説明。

— 閉会 —